

COLUMN 1

岡崎に住んでいて

三宅伸一郎

総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻

分子研の周囲には畑が広がっていてそこでは麦が栽培されています。五月ごろには50cmくらいにまで伸び青い穂を結んでいました。オオムギで無いのは判りましたが、コムギなのかどうなのかはわかりませんでした。後日小麦について調べてみると、国内の小麦の9割が輸入で、国内生産の7割を北海道が、以下福岡6%、群馬5%と続き愛知東海地方で最多の3%の生産量となっています（平成18年 東海農政局）愛知の農家の方々ががんばっています。

春、麦がまだ青いころ豊田市との境界近くの麦畑を歩いているとキジの鳴き声が聞こえました。藪の中にいるのかなと思っていると河川敷の方からも後方の麦畑からもなわばりを主張するのがわかりました。3匹はいそうです。キジはどこかなと探索することにしましたが、安易に鳴き声の方向に歩いていくのは危険です。近づきすぎると警戒され静かにされてしまいます。畑で鳴いていたのは顔の真っ赤な雄と地味な雌のつがいでした。意外とキジは馬鹿なところがあって畑に隠れてもオスの尻尾が見えていたり、つい他のオスの鳴き声に反応してしまったりします。

構内にはタヌキがくらしているという話をよく聞きます。私は分子研に来て1年と2ヶ月が経ちましたが一回もタヌキに会えていません。イヌと同じくらいタヌキが好きなのでいつあえるのだろう心待ちにしていたのですが、いっこうに出会いがなく寂しい生活を

強いられていました。代わりにハクビシンをみかけました。サントリーさんの講演があった日に研究棟と南実験棟の間の庭をうろろろしていたところ目が光った

のでタヌキかなと思ったのですが、顔の中心が白くてしっぽが長かったのでどうやらハクビシンだったようです。その後も研究棟の庭や駐車場で頻繁に見かけるので南実験棟と実験棟の間の藪にひそんでいるのでしょうか。非常に警戒心が高くて人間の姿を見かけただけで逃げられてしまいます。夏になると除草が行われるのでハクビシンの安住が脅かされるのではないかと危惧していたのですが、装置開発室の近くで目撃されているので元気に過ごしているようです。

私は分子研から見て北西に住んでいるので伊賀川沿いに歩いて通学していますが、四月くらいからつがいのムクドリもよく見かけるようになります。西三河総合庁舎の通りの街路樹は晩夏に入るくらいからムクドリだらけになります。ムクドリのことが嫌いではないのですが「ギョルギョル」とよそではちょっと聞くことのできない音のすく木の下を通る気にはなれません。

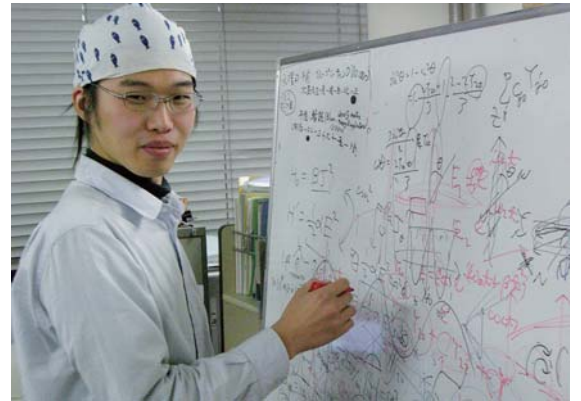
少し暖かくなると蛇が出てきます。伊賀川の河原には2mくらいのアオダイショウとシマヘビがいます。アオダイショウは神社近くの護岸で寝そべてひなたぼっこをしています。除草

みやけ・しんいちろう

京都大学大学院理学研究科修士課程を3年かけて終了。内最後の半年は分子研です。

分子研レタース51で知ったサイバーレーザーに入社後1年間で出奔。現在に至る。

趣味は散歩。好きな味噌汁の具は麩。好きな麺類はうどん。好きな豆腐はもめん。好きなお菓子はグミ。苦手なものは分子科学。



が行われると岡崎公園の方まで逃げてきたりします。伊賀川のアオダイショウは右目の上に白いふが入っていました。左目については近くで観察する機会が無かったのでわかりません。このアオダイショウ、陸上にいるときは人間以外に恐れるものは無いのですが、人影を避けたりして川に逃げ込むとカラスにちょっかいをかけられます。カラスは川から上がるときを狙って襲います。へびが川に入ると数匹のカラスがやってきてへびが陸に上がろうとするところで待ち構えます。カラスに襲われるのは一度や二度ではないのですが毎回へびは何度も上陸を試みカラスにつつかれ、結局は草むらまで泳いでいってへびが隠れてからすが飽きて終わります。一方シマヘビは二度しか見たことが無いのですが、伊賀川河原に降りる階段のあるお稲荷さんの真下にある畑の近くに住み着いているようです。このシマヘビをはじめ見たときはゴム製のおもちゃか干物かと思うくらい色がまっくらだったので「かわいそうにと」油断して近づいたところ、ガラガラへびのようにしっぽを垂直に立てて震わせて威嚇されました。私はまんまと威嚇され一人ぼっちの河原で奇

声をあげてひるんだ際に川に逃げられました。今までにマムシにしっぽを振られたことはあるのですが、ツヤがあり細身でまっくろだったので「やばいやつが岡崎にいる。」とおおはしやぎで調べたところ、シマヘビは黒化することがあって威嚇するときはしっぽを立てて振る、マムシはしっぽで地面をたたいて威嚇するのだそうで、少しがっかりです。7月の始めの週に川底で細長い物が沈んだ木の枝に太いほうをを挟んで白くなびていました。どうやら溺れ死んだようです。河原で自転車に

乗っている名前は分からないおじさんも最近ヌシを見かけないと言っていました。

八幡（はちまん）通りでは一の位が二と七の日には二七（ふな）市という市が開かれます。八幡通りは殿橋から電車通りを北上して三菱東京の南側にある通りです。普段は心なしか殺風景に感じる通りですが二七市の日にはお祭りでもやっているかのような賑わいです。八幡通りと電車通りの角にあるパチンコ店も二七市の日には二七市感謝デーをします。地域ぐるみの取り組

みのようです。ちなみに二七市は12時位には終わります。私は福岡の小倉出身なのですが京都の吉田神社の節分祭でハサミや鎌を売っている出店があったのが印象的で、そこに来て二七市なので普通のお祭りはハサミや鎌を売っているところがあたりまえで小倉のお祭りが異常というのは間違った認識なのでしょうか。だれか教えてください。

書くことがなくなりました。
俳句を盗作します。

すばらしい分子研だ蚊が居る

COLUMN 2

分子研・岡崎あれこれ

三宅 雄介

総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻

今回、総研大コラムの執筆を仰せつかりました小川グループ、博士後期過程3年の三宅です。分子研ってどういふところか、分子研がある岡崎という場所について簡単に紹介できたらと思います。共同研究で来訪される研究員や、これから総研大に入学を希望される学生の方々のほんの少しでもお役に立てたら幸いです。

まず大学ではなく分子研という研究所で学ぶメリットはなんでしょうか。

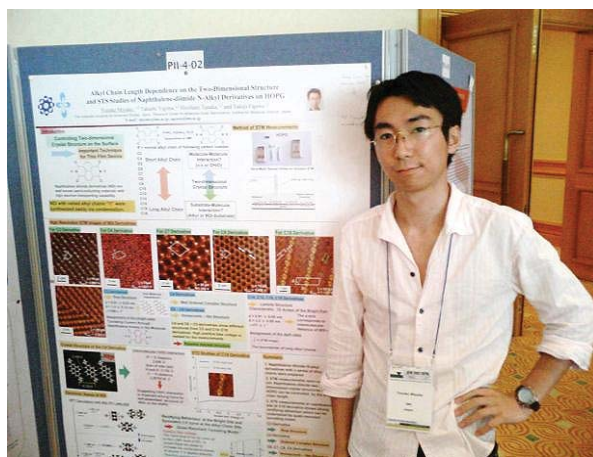
1) 恵まれた研究の設備環境。これは私が説明するまでもなく非常に恵まれています。人が少ないこともあるのですが、研究設備は、待たされることなく比較的自由に使えると思います。データベース関係も充実しています。

2) アクティビティの高い研究者と過ごせる。個人的にはこれが一番良い点

ではないかと考えています。分子研は少人数のグループ同士が、合同でセミナーをやることが多く、異なる分野の専門家と意見交換ができます。研究会も多いです。そこから、共同研究に発展することもしばしば。セミナーだけでなく、各種のイベントの後に行われるラウンジでの飲み会でも、濃密な研究者同士のやりとりが楽しめます（床で転がって寝ている方もいらっしゃいますが(笑)）。研究所外に出ても、岡崎3機関（分子研、生理研、基生研）関係者が良く出入りする場所なんかがあります。今日も公務員宿舎の近くのワインバーなんかでは、ナノ構造の研

みやけ・ゆうすけ

2006年3月東京都立大学修士課程修了。同年4月より総研大機能分子科学専攻5年一貫博士課程3年次編入学。D3として分子スケールナノサイエンスセンター小川グループに所属。研究テーマは、有機分子を用いた自己組織化ナノ構造、およびその電子状態を主に走査トンネル顕微鏡（STM）を用いて研究している。AsiaNano 2006 Outstanding Research Award, 受賞、2007 International Scanning Probe Microscopy Conference Best Poster Award 受賞。専門分野：有機合成・表面物理科学



究する学生と昔の専門家などが楽しくお酒を飲みながら議論していたりしよう。ひょっとしたら分子研の広報担当者なんかは飲みに来ているかもしれません。

3) 語学関係のプログラムが充実している。岡崎3機関には、2名の専任ネイ

ティブ英語教師がおり、会話とプレゼンテーションの授業が開講されています。分子研以外の2研究所の学生、スタッフも参加するので、そこで交流が深まってよい友人が出来たりします。個人的な感想ですが、非常に授業の雰囲気が良く、毎回得られるものも多かったです。また機会があれば受講したいと思うプログラムでした。分子研の場合、研究室に海外から研究員が来ることもしばしばあるので、この語学関係の知識は即実践できます。私の場合は、分子研来て一年目にインド、ドイツ、中国から、2年目にはインドからの研究者がグループ内にいましたので、英語をしゃべる機会には事欠きませんでした。

他にも色々メリットはあるのですが、じっくりモノを考えたい、研究したいという学生には分子研最適な場所だと思います。研究に疲れたら仲間たちとバレーボール、バドミントンやサッカーなんかの課外活動（サークル）で汗を流すのも良いかと。研究所内にはテニスコートや、卓球場、トレーニング施設なんかもあります。山手地区のラウンジでは音楽が趣味の有志が集まって不定期に演奏会や、月に一回ほどの割合で、Happy Hourという名の

パーティが催されており、非常に良く賑わっております。週末には、友人に車を出してもらって海や山に繰り出すことも多いです。岡崎自体は、都会的な刺激がほしい人にはちょっと物足りないかもしれませんが、名古屋に出るのも比較的容易なので結構便利な場所なのではないでしょうか。

このコラムを書くに当たって、岡崎という土地を紹介するに当たり、岡崎在住の友人に岡崎といえば何という質問をぶつけたところ、「……味噌。」という答えが返ってきました。味噌というトピックのみでコラムの後半を書ききる自信はありませんので、簡単に岡崎という街を紹介させていただきます。岡崎という土地は、地理的には坂が多く、生活をするうえでは、車はあったほうがよいです。しかし車の運転が荒いお土地柄なので、運転の際にはご注意ください。私の目線から見て岡崎の特徴と言えば、意外に思われるかもしれませんがエスニック料理、特にインド料理屋（一般的なカレー屋は除外する）が多いことだと思います（ここでは触れませんがタイ料理屋も多い）。岡崎という街には外国の方（多数派は南米系）が多いので、そのことも一因だと考え

られます。研究所から数キロ圏内に知っている範囲でも7軒のインド料理屋があります（全国的にはもっと密度の濃い場所があるかもしれませんが）。岡崎市内のインド料理屋の特徴としては、なぜか料理人には、ネパール系の人々が多いということです。そのためインド料理といってもネパール系の味が多いです。料理人が変わると味が変わるため、店によっては日によって全然違う味になっていたりするのもある意味、魅力の一つです。ベジタリアンのインド系の研究者の来訪に備えて、ベジタリアン向けのメニューがあるインド料理屋をいくつか知っておくと便利です（うちのラボでは今まで3回の来訪ありました）。駅前のインド料理屋ではスパイス類もスーパーなどより格安で購入できるので、長期滞在のインド系研究者には教えておくと喜ばれます。常連になると、いろいろと面白い情報（腰痛の民間療法とか変な言葉とか）を教えてくれるのも魅力です。岡崎にお越しの際には、一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。

取り留めのない文章になってしまいましたが、最後に、ぜひ分子研で最良の研究生活を楽しんでください。では。